

社会福祉法人 十百千会

# 就労継続支援B型事業所

ワークセンターゆきぞの

## 工賃向上計画

(平成30年度～平成32年度)

平成30年 4月 1日

## 第1章 サービス提供の理念

十百千会は、障がい者福祉の向上を目的とし、社会福祉施設を運営するために昭和55年に設立された。

設立にあたっての理念は、障がい者も健常者も等しく社会に貢献し、自立した生活を送ることを支援するものである。

以来、設立の主旨に沿って、障害者入所施設を運営してきた。平成22年より就労継続支援B型事業所に移行し、名称をワークセンターゆきぞのとして活動を展開している。

ワークセンターゆきぞのは①就労経験がある者であって、年齢や体力の面で一般企業に雇用されることが困難となった者、②就労移行支援事業を利用した結果、B型の利用が適当と判断された者、③①、②に該当しない者であって、50歳に達している者又は障害基礎年金1級受給者を対象として就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を通じて生産活動に係る知識の向上や維持を支援してきた。

十百千会は、「ゆめ」「よろこび」「ゆたかさ」の実現のため全力でサポートする新たな理念に則り、障がい者の自立した生活を支援するため就労継続支援B型事業所ワークセンターゆきぞのにおける工賃向上計画を策定する。

## 第2章 事業所の現状等について

### 1 利用者の状況

現在ワークセンターゆきぞのの定員及び登録利用者数、平均障害支援区分は以下のとおりである。

定員	登録利用者数	平均障害支援区分	障害支援区分	
40人	46人	1.7	区分1：0人 区分2：15人 区分3：11人 区分4：3人	区分5：1人 区分6：0人 区分なし 16人

### 2 現在の作業の内容

現在工賃に算定している作業の内容としては以下のとおり

- ① 下請け作業（タオル製品加工）
- ② 農業（椎茸原木栽培管理、ミニトマト栽培管理、お茶栽培、竹箒作りなど）
- ③ 施設外活動
- ④ 下請け作業（お茶箱作業）

### 3 支援体制の状況

職 種	員数	常 勤		非常勤	
		専従	兼務	専従	兼務
サービス管理責任者	1	1			
目標工賃達成指導員	1	1			
生活支援員	5		5		
職業指導員	5	1	4		

### 4 旧工賃向上計画（平成27年度～平成29年度）について

#### (1) 旧工賃向上計画期間における、工賃向上に向けた取組みとその成果

##### ①【取組み】

自動ミシン機械操作ができるよう職員の育成を図る。

##### 【成 果】

職員の育成により稼働率が上がり生産向上に繋がって、ご利用者に安定した仕事を提供し、工賃増加に寄与することができた。

##### ②【取組み】

施設外活動の新規開拓に労働力提供のチラシを作成して、公共機関・組合・団体等に配布し、作業依頼を増やす。

##### 【成 果】

施設外活動の仕事が増え計画的に行えるようになった。また、施設外の作業に出掛ける前と終了時等に施設内でご利用者に服装や健康チェック、安全面及び仕事内容について説明をすることにより、作業を効率よく進めることができ、工賃が多く支払えるようになった。

#### (2) 各年度の目標工賃と工賃の実績

(単位：円)

	H27年度	H28年度	H29年度
平均工賃月額【目標値】	19,500円	21,000円	22,000円
平均工賃月額【実績値】	19,032円	19,115円	21,485円
平均工賃時間額【目標値】	150	175	183
平均工賃時間額【実績値】	157	171	189

(3) 各年度の目標工賃と工賃の実績

旧工賃向上計画（平成27年度～平成29年度）期間における平均工賃の目標値と実績値については上記（2）の表のとおりであったが原因としては以下の要因が考えられる。

① マイナス要因

- ア. 課題点をクリアしてきて伸びしろが、狭くなってきた。
- イ. 冬場は施設外での活動依頼がほとんどなく、収入減となっている。

② プラス要因

- ア. 下請け（タオル製品加工）で、加工品の一部の種類において賃金がアップした。
- イ. 施設外の活動において定着した仕事ができるようになった。

5 これまでの取組みを通じて得た課題等

- (1) 下請け作業で一部の加工賃がアップをしたが、加工賃が安い加工が多くなってきたので、自動ミシン機をフル回転し、タオルの端縫いを上げることが必要である。
- (2) 施設外の活動を希望される、ご利用者の中には高齢になってこられた方がおり、体力的な問題もあり、作業内容に応じた取組みが必要となってきた。
- (3) 1月から3月にかけて収入減となっているので、生産活動の取組みについての検討が必要である。

第3章 今後の目標及び目標を実現するための取組み等

1 平成32年度の事業予想

現在の工賃を構成する各事業及び収支について、平成29年度と比較して、平成32年度は次のように変化していると予想する。

※別表の（1）、（2）を参照

(1) 平成29年度の事業（現状）

平成29年度工賃の原資（ 10,995,413 円）中

勘定科目		合計	① タオル事業	② 農業事業
収 入	就労支援事業収入	14,108,383	8,848,955	5,259,428
	引当金戻入			
	就労支援事業活動収入計	14,108,383	8,848,955	5,259,428
支 出	就労支援事業販売原価	3,124,277	1,415,103	1,709,174
	・期首商品たな卸高	12,555	2,115	10,440
	・当期就労支援事業製造原価（工賃を 除く）及び当期商品仕入れ高	3,124,277	1,415,103	1,709,174
	計	3,136,832	1,417,218	1,719,614
	・期末商品たな卸高	△23,862	△2,115	△21,747
	差 引	3,112,970	1,415,103	1,697,867
	販売費及び一般管理費	0	0	0
	徴収不能額	0	0	0
	引当金繰入	0	0	0
	就労支援事業活動支出計	3,112,970	1,415,103	1,697,867
就労支援事業活動収支差額＝工賃原資（A）		10,995,413	7,433,852	3,561,561

(2) 平成32年度の事業予想

平成32年度工賃の原資（17,000,000円）中

勘定科目		合計	① タオル事業	③ 農業事業
収 入	就労支援事業収入	21,000,000	13,200,000	7,800,000
	引当金戻入	0	1,100,000×12ヶ月	650,000×12ヶ月
	就労支援事業活動収入計	21,000,000	13,200,000	7,800,000
支 出	就労支援事業販売原価	4,000,000	2,500,000	1,500,000
	・期首商品たな卸高	20,000	10,000	10,000
	・当期就労支援事業製造原価（工賃を 除く）及び当期商品仕入れ高	4,000,000	2,500,000	1,500,000
	計	4,020,000	2,510,000	1,510,000
	・期末商品たな卸高	△20,000	△10,000	△10,000
	差 引	4,000,000	2,500,000	1,500,000
	販売費及び一般管理費	0	0	0
	徴収不能額	0	0	0
	引当金繰入	0	0	0
	就労支援事業活動支出計	4,000,000	2,500,000	1,500,000
就労支援事業活動収支差額＝工賃原資（A）		17,000,000	10,700,000	6,300,000
増 減		6,004,587	3,266,148	2,738,439

### 3 目標工賃の設定

第2章及び本章1の事項を踏まえ、平成30年度から平成32年度までの目標工賃を次のとおり設定する。

(単位：円)

	H30年度	H31年度	H32年度
平均工賃月額【目標値】	25,000円	27,500円	30,000円
平均工賃時間額【目標値】	208	213	238

### 4 目標工賃達成のための取組み

3で設定した目標工賃を達成するために、今後、次のことに重点的に取り組み、当該重点取組み事項の年度ごとに実施計画を下記表のとおり定める。

- (1) 作業の効率化を行なったうえで、職員増員の検討。
- (2) 生産性を高めるため、自動ミシンの機械操作及び修理の育成。
- (3) 1月～3月の収入強化の取り組み。

	H30年度	H31年度	H32年度
(1) 作業の効率化を行なったうえで、職員増員の検討。	・採算の分析。 ・生産性の分析。	・課題や改善すべき点の検討。 ・支援体制の強化。	・支援体制の強化
(2) 生産性を高めるため、自動ミシンの機械操作・修理ができる職員の育成。	・技術指導。	・技術指導。	・技術指導。
(3) 農閑期の収入強化の取り組み。 ミニトマト・椎茸原木栽培管理。	・地域資源の活用と製品販売強化。 ・栽培技術指導。	・地域資源の活用と製品販売強化。 ・栽培技術指導。	・地域資源の活用と製品販売強化。 ・栽培技術指導。

### 5 計画の達成状況及び評価

本計画については、各年度において、前年度の実績を踏まえ、達成状況を点検・評価し、その結果に基づいて計画の見直し等所要の対策を実施するものとする。